

米国の大学で用いている学習スキルの教科書に見られる工夫 —多様性と個性伸長に関する章を中心に—

Instructional Tactics in a College-Level Textbook on Learning Skills:
An Example of Chapter on Diversity and Enhancement of Individuality

鈴木 克明 根本 淳子
Katsuaki SUZUKI Junko NEMOTO

熊本大学大学院 教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ 米国取材で入手した大学入学段階で学習スキルを教える科目で用いられている教科書の多様性と個性伸長に関する内容と教授方略上の工夫を抽出した。教授方略上の工夫としては、類似概念との対比、比喩の活用、学説を現在進行形のものとして紹介、導入的紹介と専門的診断の区別、大学生活での応用支援などがあつた。

＜キーワード＞ インストラクショナルデザイン 高等教育 教科書 教授方略

1. はじめに

大学における導入教育で学習スキルを扱う事例が我が国でも増えている。様々な教科書や教材が作成され、学習を支える材料となることが期待されている一方で、欧米で用いられてきた教科書を翻訳して使用する事例も少なくない。導入教育における学習スキルの習得は従来からの講義スタイルでは効果的に行われることは見込まれないため、内容のみならず教育手法についても特に自覚的になることが求められよう。

大学の大衆化が先行し、これまでに様々な工夫がなされてきた米国の教科書は、教育内容と手法の両面で参考になると考えられる。そこで本報告では、米国取材で入手した学習スキルについて扱う教科書 (Seller, et al, 2005) を取り上げ、学習者の多様性と個性の伸長を扱う章で取り上げられている内容を概観し、教授方略上の工夫としてどのような特徴が読み取れるかを考察する。

2. 学習者の多様性と個性の伸長

対象としたテキストは全 13 章、350 ページからなる大学導入教育用の教科書であり、2005 年に初版が発行された後、改訂が加えられて 2011 年に第二版が発行されている。分析の対象となった章は、教科書の第 12 章 (原題: Exploring the diversity of individuality) である。

表 1 に、対象章で扱われている事項を列举する。多様性の軸として、本章では、ガードナーの知性の多次元尺度と MBTI が取り上げられている。さらに、MBTI の 16 タイプを 4 分類した気質 (Temperaments) について詳細に取り上げ、教員と学生との相性についても話題を広げている。

表 1: 「学習者の多様性と個性の伸長」項目一覧

- ・ 個性 (Individuality) と才能 (Talents)
- ・ 練習 12.1: 自己診断: 私はどう違う?
- ・ 練習 12.2: 動物の学校 (物語)
- ・ ガードナーの多次元尺度
- ・ 表 12.1: 多次元知性のそれぞれの伸ばし方
- ・ 練習 12.3: あなたの多次元知性; ケース
- ・ 好み (Preferences)
- ・ 練習 12.4: 好みについて知る
- ・ 練習 12.5: 自己診断: あなたの学習の好み
- ・ MBTI (Myers-Briggs Type Indicator): 情報を得る、決断する、注意とエネルギーの焦点、ライフスタイル指向; 事例
- ・ 表 12.2: パーソナリティタイプと学習の好み
- ・ 練習 12.6: あなたのパーソナリティタイプと教員のパーソナリティタイプをマッチさせる
- ・ 気質 (Temperaments): 保護者、職人、理想家、合理主義者
- ・ 表 12.3: 4 つの気質ごとの共通個性
- ・ 結論、要約、キー概念、応用課題、結語

3. 教育方策上の特徴

3.1. 類似概念と対比し、きっぱりと言い切る

本章の冒頭で、個人主義か集団 (家族) 主義かと個性 (才能と好み) との区別を明確にし、類似概念と対比することで対象を際立たせている。その際、次のように明確に言い切っている。

「アメリカの大学・短大は主に個人主義に価値を置き、自分で立てたゴールを達成する能力で成功するかどうかが決まる競争的な環境を用意している。科目の中ではグループプロジェクトを設けて共同作業を課す場合もあるが、教育機関としての目的は個人を教育することに主眼がある。成績証明書は個人のものである (p284)。」

3.2. 比喩を用いて考えさせる

個性の伸長というテーマをすべての動物に「走る」「登る」「泳ぐ」「飛ぶ」の共通カリキュラムを履修させて失敗した動物の学校物語という比喩を取り上げて考えさせている。

問い：(1) この物語にはどのような教訓が示唆されているか？ (2) 学生としてあなたはどの動物に似ていると思ったか？その理由は？

3.3. 学説の進展が現在進行形だと伝える

ガードナーの多次元尺度について、1983年に7つで提唱したものを1996年に8つ目の「自然的知性（Natural Intelligence）」を加えたこと、2003年の学会で「まだ増えるかもしれない」としたガードナーの演説を紹介しその中で、Spiritual, Sexual, Digital, Attention等の提案があり、「知性の種類は流動的で、アルゴリズム的結論というよりは判断の問題」と語ったことを紹介している。ここまでの詳細は大学初学年次教育には不要と思われるが、学説が現在も流動的であることを伝え、歴史的事実として固定・不変であるという印象を与えないように工夫している。

3.4. 導入的紹介と専門的診断を区別している

MBTIを紹介する際に、タイプごとの学習の好みの一覧表（表 12.2）を提示して紹介している一方で、正式な MBTI を受けてみるように勧めている。導入教育でやるべき範囲を示すと同時に、

その先にどのようなより専門的な発展形があるかを示している。

3.5. 大学生活での応用例を示し演習させている

MBTI については、練習 12.6 において、次の問いを投げかけている：あなたのタイプは？ 各科目担当教員のタイプと思うのは？ 一致している教員の授業は受けやすいか？ 違う場合どう乗り越えてきたか？ 新しく紹介した枠組みを自分自身にあてはめさせ、次に教員との関係で自分の学習にどう役立てうるかを考えさせている。また、MBTI の 16 タイプを 4 分類した気質（Temperaments）については、一般人口・大学生・大学教員内の比率（1995 年調査）を挙げて大学教員は一般人と比べて偏りがあることを伝えたり（表 2 参照）、有名人の名前を掲げて実感を持たせたりしている工夫も興味深い。

謝辞

本研究は、科研費基盤研究 B（課題番号：2130031、研究代表者：吉崎静夫）及び挑戦的萌芽研究（課題番号：22650206）の補助を受けた。

参考文献

Seller, D., Dochen, C. W., & Hodges, R. (2005). Academic transformation: The road to college success (2nd Ed.). Pearson (Chapter 12: Exploring the diversity of individuality, p. 281-312).

表2：気質（Temperaments）についての記述（注：原典では文章にて説明しているものを表形式に直して試訳した）

名称	保護者 Guardians (SJ が共通)	職人 Artisans (SP が共通)	理想家 Idealists (NF が共通)	合理主義者 Rationalists (NT が共通)
比率	一般 38%、学生 28%、教員 24%	一般 38%、学生 21%、教員 5%	一般 12%、学生 25%、教員 11%	一般 12%、学生 28%、教員 60%
一般的特質	規律と責任、価値、伝統を重んじ計画的、最も安定している、忠誠的で驚きが苦手、ルールの一貫性を望む	自由と自発性、活動が好き、柔軟で衝動的。問題解決が得意で直近の問題に焦点を当てて行動	楽観的でロマンチック、他者に最善を尽くす、調和を好み争いを嫌う、駆け引き上手で協調的、敏感で情熱的	知識と達成を重視し、理解・制御したが、何につけても達成を望み、不得意なことは自己批判的になる。用心深く言語・論理的で情け容赦ない
教員として	学生に良い市民になって欲しいと願い、規則とパターンを確立し几帳面な授業計画を立て、講義を多用。行き届いた、公平で支援的なフィードバックを与える	学生に多くの選択と機会を与え、速い、あるいは落ち着いた多様な活動を取り入れる。テストよりはプロジェクトを好み、ルールや制約を見逃すことが多い	ユニークさに価値を置き、学生も個人として自己表現することを奨励。批判するよりもほめる。グループ討議、創造的文書作成、ピアチュータリング等を好み、良い聞き手で学生からの最大値を引き出す。カリスマ的であるが、成績付けやクラス準備などの任務をサボる傾向あり	難易度の高い課題を与え、論理や根拠を期待。学生の知的能力を伸ばすことを強く望む。担当科目への興味が強く専門家だとみられることを好み、学生もそうなることを期待。学生に対して対人スキルや感受性に欠け、自分の科目しか眼中になく、学生に課される全課題量を配慮しない
学生として	まじめで素直。活動計画は注意深く立て、リスクを冒すことを好まない。グループワークは責任感が乏しいメンバーにイライラするため好まない	自発的で権威を信用しない。ルールや規則に抵抗し、誰かの制御から逃れ自由でありたい。反抗してサボるが科目が好きになると熱くなり、情熱を傾けて良い結果を残し周囲に良い影響を与える	創造的・柔軟・非伝統的である。クラスの最上位か最下位を占めるが、称賛が欲しく、仕事が評価されるときは進んで動く。全員を活動に巻き込むことを重視し、他者の達成を補助する。グループワークを好み、他者を引っ張る。文章はうまく、たとえを駆使する能力に秀でている	知的にできる人になりたい。問答法や自主プロジェクト、競争を好む。理念的世界に住み、その世界を変えようと思っている。細部にはこだわらない。リーダー役になるが、歩みが遅いメンバーには寛容ではない。何に対しても疑問を持ち、その対象には教員も含まれる。学びは速く、批判的思考ができるが、周囲からは傲慢だと思われる

注：名称欄の略語は次を示す：情報収集（感覚的 S、直感的 N）、意思決定（思考 T、フィーリング F）、ライフスタイル指向（判断 J、受容 P）